TV 報道検証【報道特集】　報告書

テレビ局： TBS	番組名：報道特集	放送日： 2018 年 12 月 8 日

出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子
井上波（前北京支局長）

検証テーマ： オープニング、医学部入試で不適切な処理が発覚、警察無線音声がネット上で公開、
フランスでデモ、真珠湾追悼式典、中国の無人探査機打ち上げ
海上自衛官の男を放火の疑いで逮捕
【特集】外国人労働者の受け入れ拡大、【特集】人権派弁護士の妻

報道トピック一覧

・医学部入試で不適切な処理が発覚
・イタリア東部のナイトクラブで客が出口に殺到し 6 人死亡
・韓国高速鉄道の脱線事故で 15 人が怪我
・警察無線音声がネット上で公開
・フランスでデモ
・真珠湾追悼式典
・中国の無人探査機打ち上げ
・ロッテのカスティーヨ選手らがベネズエラで交通事故により死亡
・海上自衛官の男を放火の疑いで逮捕
・栃木県壬生町でおもちゃのチャリティーイベント
・静岡県下田市の水族館でサンタクロースが餌付けイベント
・【特集】外国人労働者の受け入れ拡大
・【特集】人権派弁護の妻
・スポーツ報道

放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨

・オープニング：結論→特に問題なし

金平キャスターが番組冒頭で「国会が空洞化しているということは国民が軽んじられているということです。国民が軽視され、ないがしろにされている国家は民主主義国家ではありません。入管法改正審議からこのことを今日の特集で考えてみたいと思います。」とコメントしていた。

このコメントに当てられた時間は 15 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・医学部入試で不適切な処理が発覚：結論→特に問題なし

金沢医科大学、岩手医科大学、福岡大学医学部の三大学で不適切な入試が行われていたことが明らかとなったことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 156 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・警察無線音声がネット上で公開：結論→特に問題なし

警察無線でのやり取りとみられる音声がインターネット上の動画投稿サイト YouTube で公開されているのが見つかったとのこと、警視庁によると音声は 2009 年に都内で起きたひき逃げ事件の際に通信指令本部とパトカ

一の間でやり取りされたとみられるものなど 3 つで車両のナンバーや所有者の名前など個人情報も含まれていたということ、警察無線は暗号化され一般の人が傍受できないように対策が取られているものの公開された音声は本物の可能性が非常に高いということ、警視庁は YouTube を運営するグーグルに削除を要請するとともに公開されたいきさつを詳しく調べているとのことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 56 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・フランスでデモ：結論→特に問題なし

燃料税の引き上げに反対するデモが激化しているフランスでは 8 日も大規模なデモが予定されていることからエッフェル塔などパリの観光施設が閉鎖を決めるなど厳戒態勢に入っているとのことが報じられた、このトピックに当てられた時間は 75 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・真珠湾追悼式典：結論→特に問題なし

太平洋戦争の火蓋を切った旧日本軍によるハワイ真珠湾への奇襲攻撃から 77 年を迎え現地で追悼式典が開かれましたとのことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 76 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・中国の無人探査機打ち上げ：結論→特に問題なし

中国国営の中央テレビは今日未明四川省の発射センターから無人探査機「嫦娥 4 号」打ち上げに成功したと報じたとのこと、世界初となる月の裏側絵への着陸を目指していて来年 1 月を目処に着陸し地球からは見えない月の裏側の地形や地質を調査する予定だとのことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 55 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

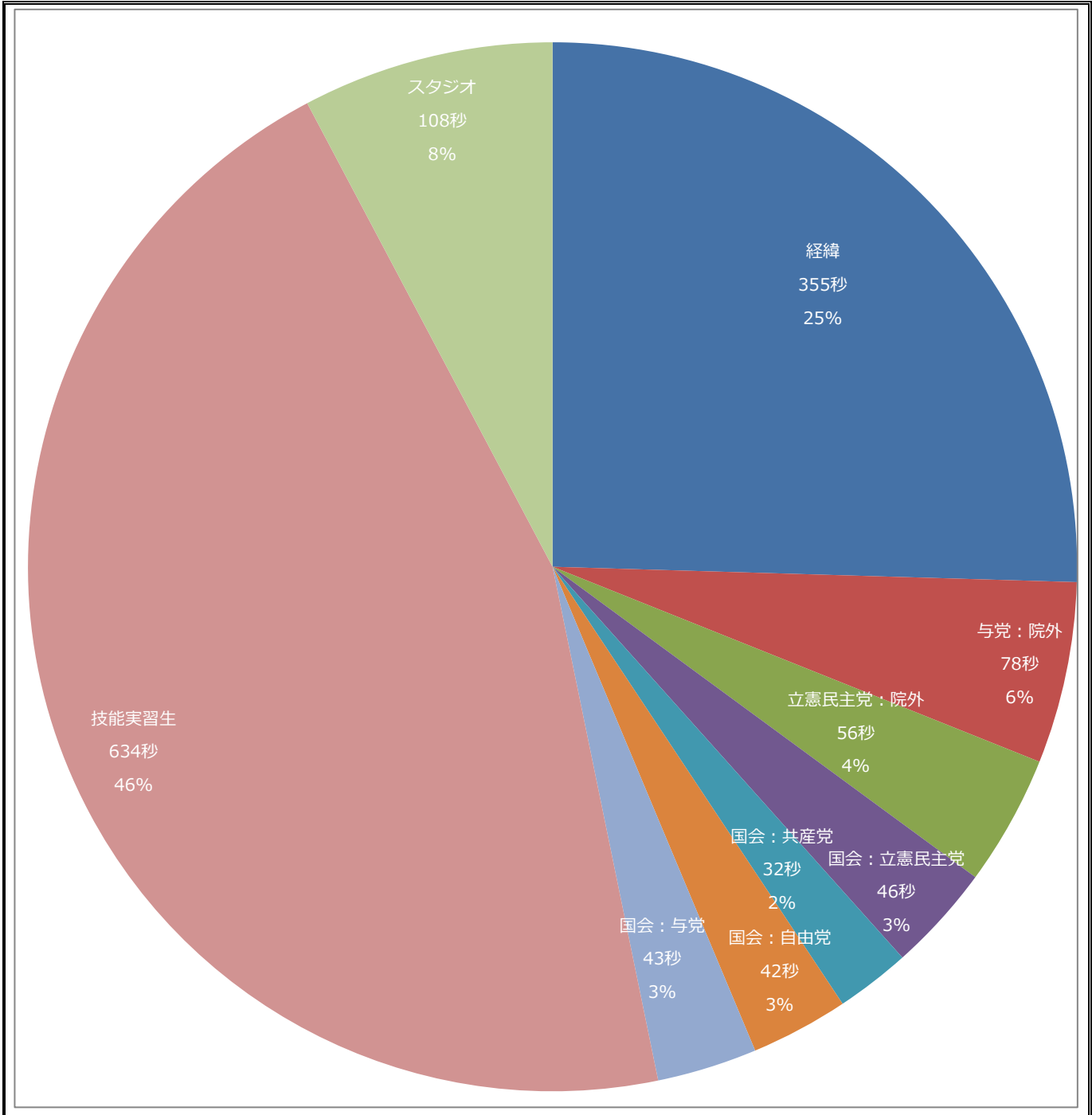
・海上自衛官の男を放火の疑いで逮捕：結論→特に問題なし

海上自衛官の男が神奈川県海老名市の山林に放火したとして逮捕されましたとのことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 51 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】外国人労働者の受け入れ拡大：結論→放送法第四条一項二号や同四号に照らして問題

外国人労働者受け入れの議論についての特集で、主に経緯についての説明、院外での自民党議員の発言、院外での立憲民主党議員の発言、国会での立憲民主党議員の発言、国会での共産党議員の発言、国会での自由党議員の発言、国会での与党議員の発言、技能実習生について取り上げられた VTR、特集を受けてのスタジオでのやりとりという 9 つの場面に大別された。

この特集について当てられた時間は 1394 秒で、それぞれの場面についての時間配分及び比率は以下の通りであった。



与党議員の院外での発言については法案成立を承けての菅官房長官の「しっかりと外国人材の方を管理をする管理をさせていただくと同時に、そして生活環境もしっかり整えて、日本で働けていける環境というものを作っていきたい。」というコメントや、外遊から帰り国会審議に臨む安倍総理の「時差が激しく残っている中において、明日は法務委員会に２時間出て、ややこしい質問を受けるという状況で、ございますが」というコメント、入管難民法改正案が衆議院法務委員会で採決される前の平沢勝栄氏の「もうちょっと審議して良いんじゃないかとお声の方もありますけど、私は今日申し上げたんですけども、この問題は議論したら、もうきりがないんです。いくらでも問題点は出てくるんです。」というコメントが取り上げられていた。

立憲民主党議員の院外での発言については法案成立を承けての枝野幸男代表の「白紙で委任しろと言うような中身になっていますので、とてもあの許される認められるものではありません、運用をしっかりと厳しくチェックをしていくと、出来るだけ早く本来のあるべきもの、というところにですね、改善をしていく法改正ができる

ように力をつけていきたい。と。」というコメント、参院の審議を終えて院外での金平キャスターの「見ていてですね、これが良識の府の参議院の委員会の今のまぎれもない姿だと、いうことを感じました。山下法務大臣の姿勢についてはどう思われましたか？」というインタビューに対し有田芳生参議院議員が「ペラペラペラペラかんなくずのように観念的なことを言ったって、現実はそこには何にもありません。まず現実から出発するべきですよ。」と答えるシーンが取り上げられていた。

国会での立憲民主党議員の発言については以下に朱記した質疑が取り上げられていた。

有田氏「技能実習生はこの３年間で６９人亡くなっております。中には凍死、溺死、そして自殺。日本を本当に愛してやってきたのに結局差別され、虐待され、蹴られ、殴られ、自殺をした。そういう人がいっぱいいるのに、これをどのように総括して新しい制度に入っていかれるんですか？総理にお聞きしたいです。」

有田氏「いやいや、総理に聞いているんです。総理に来てもらっているんだから。違う？なんのために来てもらっているんですか？だめだ。ダメだ。総理に聞いてんだから」

山下貴司法相「なぜかといえば、これは法務省において提出した資料にございますので」

安倍首相「亡くなられた例については、私はいま初めてお伺いをしたわけでありまして、ですから私は答えようがない、わけであります。」

国会での共産党議員の発言については以下に朱記した質疑が取り上げられていた。

仁比氏「総理は衆議院の段階で、9 割の方々がうまくいっているというふうに答弁をしてこられました。いいですか、総理。この 9 割はうまくいってるという認識はこれは撤回をされて、よく考えなおされるべきでは、ありませんか。どうして、どうして大臣が答弁するんですか。委員長おかしいでしょう。」

安倍首相「山下法務大臣の指示の下にです、法務省内に設置されたプロジェクトチームにおいて、技能実習生の実態把握の在り方の見直しをこれは行います。」

国会での自由党議員の発言については森裕子議員の「我々は、議論の前提にさえ立っていない。議論を始める前に資料を出せ。改ざんするな。」、「言論封殺には反対します。公文書改ざんしても、麻生大臣は居座っているじゃないですか。ルールを破っているのは安倍内閣だ。」という発言が取り上げられていた。

また、国会での与党議員の発言については、質問を行う映像とともに「参議院法務委員会での質疑では、こんなことも。質問にたった自民党の長谷川岳議員。50 分の質問時間が割り当てられていたが、22 分で質問を終えた。同様に公明党の伊藤孝江議員も 21 分で終え、午後 7 時まで行われる予定だった質疑は、6 時過ぎに終わった。参議院によると、法案の審議時間は割り当て時間で算出するため、質問しなかった時間もカウントされるという。」というナレーションが当てられていた。なお、長谷川岳議員や伊藤孝江議員の音声は取り上げられなかった。

技能実習生について取り上げた VTR は以下に朱記した 2 つのものが取り上げられていた。

【VTR１】

ナレ「新幹線、岐阜羽島駅からほど近い一角に日本で働く外国人の駆け込み寺がある。」

日下部「えー外国人相談センター。一時退避施設あり。とありますね。こんにちは。どうも TBS テレビの日下部と申します。よろしくお願いします。」

ナレ「ここで暮らすのは、中国、フィリピン、ベトナムなどから来た技能実習生 14 人だ。さまざまな理由で実習先の会社から逃れて来た。フィリピン出身のオルテガさんは、静岡県内の建設現場で働いていた。」

"日下部「オルテガさんは何でここに来たの？」

オルテガさん「会社は怖いから。あの一私の先生はノミで叩く頭を。あんまり先生が教えることが分からないと」

"

ナレ「甄凱さんは 1986 年、留学生として、中国から来日。永住権を得て、外国人たちの相談に乗ってきた。3

年前から低賃金や長時間労働などで逃れてきたおよそ 100 人を受け入れてきた。」
甄凱さん「最初は皆さんは実習生は私の自宅でみんな保護しながら、いろんな会社とは協同組合とは交渉したり、それからどんどん人増えてきてから、まあ場所がなくなって、このビルを借りて今、やっているところです。」
ナレ「この日は段ボール工場での作業中に指を切断した中国出身のコウさんが病院へ行くのに付き添った。」
"日下部「これはなんでけがしちゃったんですか？」
黄世護さん「会社で仕事中に」
日下部「機械かなんかにこう挟まれて？」
黄さん「はい」"
ナレ「黄さんは事故後、勤務先から退職を迫られたうえ、脅され、逃げてきたという。手術を受けたが、親指以外は今も曲がらない。」
日下部「中国にいたときに日本はどんな国だろうと思いました？」
黄さん「とても素晴らしい国で、とてもすごい国で、技術とか、あの交通とか」
"日下部「これ右手でしょ？字を書くのは？」
黄さん「字は今練習してます。初めてこの機械がやり方とか、詳しく教えるのが、その時、事故にはならなかった。たぶん」"
"黄さん「今、お金を稼ぐこともできない。帰国しても、仕事が見つかりません。考えるのが怖いです。」
日下部「日本に来たことを後悔してますか？」
黄さん「後悔、わかりません。後悔といえば、私の指、戻りますか？戻れますか？わかりません」"
ナレ「過酷な労働環境の中、命を絶とうとした女性もいる。静岡県内の工場で働いていた中国人のシ・ケンカさん。中国に子供を残して、家計を支えるために来日したという。」
ジさん（翻訳・吹替）「理想とは、まったく違いました。当時契約書に書かれていた毎月の収入は 20 万円でした。でも来てみると、住居費などを差し引かれて、8 万から 9 万円前後でした。家族のために、仕事をきちんとやり遂げるために 3 年間我慢すれば、無事に国に帰れると思って、ずっと我慢していたんです。」
"ナレ「しかし、ある時」
シさん（翻訳・吹替）「上司からはっきりといわれたんです。お前は実習生で中国人なんだから、発言権などない。罵られても、いうことを聞かないといけない。お前は日本で仕事をしているんだと。本当に大きなショックを受けました。頭が真っ白になって、死のうと思ったんです。何も考えたくないと。そして会社の階段から飛び降りたんです。」"
ナレ「腰に大けがをしたジさん。今もボルトを入れて生活しているという。」
ジさん「選びなおせるなら、日本には絶対に来ません。一番申し訳なく思っているのは、子供たちにです。電話するたび、お母さんいつ帰ってくるのと聞かれ、本当につらいです。」
【VTR 2】
"生徒「せんせい、こんにちは」
ナレ「名古屋市にある協同組合、クリエイトヒット。来日した技能実習生に日本語研修を行う監理団体だ。現在 17 人が共同生活を送っている。」"
"先生「この中、他に金曜日出すもの何？」
生徒「生ごみ」"
ナレ「この監理団で技能実習生を支援してきた岡部文吾さん。ベトナム出身で本名はファム・ニャット・ブンさんという。岡部さんは技能実習生が失踪する背景の一つに本国で背負った借金の問題があると指摘する。」

岡部氏「全く借金せずに来ている子は絶対いないです。みんな何をしているかといえば、残って働きたいだけなんですよ。」
ナレ「技能実習生は、まず本国の送出機関によって選考され、来日して日本の監理団体の下で研修を受ける。その後、企業に派遣され、技能実習が開始される。しかしその過程で不当な借金を背負わされてるケースがあると、岡部さんはいう。」
ナレ「悪質な送り出し機関を通じて来日すると、研修などの必要経費以外にも、違法な補償金や、仲介料、時には接待費まで技能実習生本人に請求され、借金になるのだ。
ナレ「本国で借りた多額の借金を返す為に、より高い賃金を求めて、失踪することも少なくないという。岡部さんが勤める監理団体では、違法な借金を背負わされた技能実習生は受け入れていない。それでも、送り出し機関に支払った金額を聞くと、」
"ベトナム人非能実習生「65 万円です」
ベトナム人技能実習生「60 万円です。働いて両親にお金を送ります。社長になります」"
ナレ「みんな借金をしてでも夢をかなえるため、希望をもって日本に来ている。」
"岡部さん「こんにちは。どうも、お世話になっております。」
ナレ「この日岡部さんは巡回指導のため、実習先の企業に赴いた。」"
"「忙しい？大丈夫。手とか体は。」
ベトナム人技能実習生（２３）「体は大丈夫。重い仕事じゃないから。」
「あぁー。重い仕事じゃない？」"
ナレ「実習先に出向いて、勤務状況や賃金の確認をし、不当な労働を強いられていないかなどのチェックをするのも、監理団体の役目だ。」
"ベトナム人技能実習生（２３）（翻訳・吹替）「監理団体の人が時間があるときに来てくれるのはうれしい」
スタッフ「優しいですか？」
ベトナム人技能実習生（２３）「やさしいです」"
岡部「最終的に僕らしかいないと思っているんで。だからほんとに関心のないところは企業さんの言いなりではないですけども、そういうことも言えない組合もやっぱり中にはあると思うので、」
ナレ「新制度では、外国人労働者受け入れの為の、登録支援機関が新設されることになっている。岡部さんは日本に来る外国人に借金を背負わせないことが重要だと強調する。」
岡部氏「企業さんがお金を払って、呼ぶべき。じゃあどうして人を大事にしないかというってのは、自分でお金をかけて呼んでいないからですよ。じゃあ 100 万円くらいかけて、人を呼んでたぶん殴ったり、怒ったり、そんな扱いを受けたら、いなくなりますよね。損をするのは企業さんじゃないですか。だからもっと大事にしようという気持ちになると思うんですけどね。一番気にしてるのは、そうじゃなければもう日本は選んできてもらえないってことです。」
　また、スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。
膳場「えー成立した改正入館難民法では、制度の細かい部分というのは、省令にゆだねられています。今回、新たに登録支援機関が設立されて、外国人への適切な支援が盛り込まれてはいますが、ただ本当にあの不当労働や人権侵害が防げるのか、今実習生たちの状況を見ていると、まあ危惧せざるを得ないですよね。」
日下部「まあ取材していて、改めてですけど、この技能実習制度の抱える闇の深さみたいなものを感じましたね。あの夢を持ってね日本に来て、もう二度と日本に来たくないという実習生の言葉、本当に厳しいというか、悲しい感じがします。本当に外国の人のね、労働力必要とするならですね、受け入れてやるんだという態度からです

ね、歓迎します。一緒に働きましょうそういった意識の改革、変革が必要なのかなという気がしました。
金平「僕は参議院でね取材をしたんですけど、かつて参議院というと、良識の府って言われてましたけれども、ね。このざまかと、はっきり言って絶望したというのが正直なとこですけど、例えば本会議でね、今の技能実習生の実情みたいのを有田議員が言うとですね、与党議員がヤジとか怒号とかでほとんど耳を傾けてないんですよね。今国会というのはこの入管法ばかりでは無くですね、水道民営化とか、漁業法とか、国民の在り方をこう、根本的に変えるような重要法案があったんですけども、はじめに結論ありきというようなですね、質疑の進められ方を見ているとですね、本当に議会制民主主義の危機だろうというふうに思いましたですね。この状態が常態化するとですね、国民の感覚がマヒしてしまって、政治に対する関心というのがどんどん引いていくという、そこが一番心配ですね。」

この特集ではしっかりと時間が取られているにもかかわらず入管難民法に反対の立場の意見が偏って取り上げられていた VTR の構成であった。特に、国会内での質疑では入管難民法に反対の野党からの質問のみを取り上げ、与党議員の質問のシーンでは質問する映像のみで議員本人の音声が入っていなかったり、多くの野党が反対し自民党内でも当初は慎重論が一定の位置を占めていた中で外国人労働者受け入れに賛成の立場を取り続けてきた日本維新の会の議員の国会での質疑が全く取り上げられていなかったりと、そもそも外国人労働者受け入れについて賛成派の国会での発言が取り上げられていなかった。

国会という場が重要であるのならば、与党については事前審査で十分に議論をしているから与党からの質問は野党に比べると取り上げ方は小さくてもよいという考え方は成り立たないだろうし、院外での発言を取り上げた時間と国会での発言を取り上げた時間というのでは全く重みが違う。そうした重みという点からも今回の時間配分や取り上げ方は放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」に照らして問題であり、また賛否のわかれる問題であり日本維新の会は野党の立場であり外国人労働者受け入れにも賛成の立場をとっていたにもかかわらず、その主張を全く取り上げないというのは同四号の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」に照らしても問題であると言える。

・【特集】人権派弁護士の妻たちの戦い

中国で政府から弾圧されている人権派の妻たちについて特集で取り上げられていた。

【VTR１】

"記者「いる？もめてる？」
ナレ「今年４月、北京市内の団地の一角は、騒然とした空気に包まれていた。」"
ナレ「見上げると、5 回の部屋の窓から、大声で何かを訴える女性の姿があった。」
女性（翻訳・字幕）「私の夫は弁護士で、庶民を弁護してたんだ。なのに捕まってもう 1000 日以上も生死不明なのよ！探しに行くのもダメなの？あなたたちには良心がないの？私は家族が苦境の時に逃げるような人間じゃない！」
ナレ「李文足さんの夫、王全璋弁護士は３年前、突然警察に拘束された。文足さんはこの数日前、夫の無実を訴える活動中に、拘束され、自宅軟禁となっていたのだ。」
ナレ「２０１５年の７月９日から 10 日にかけ、中国全土でおよそ 300 人の人権派弁護士や活動家が一斉に拘束された。７０９の大拘束。王弁護士はただ一人、いまだに裁判さえ行われていない。」
"ナレ「拘束される前に撮影した動画メッセージがある。」
王氏「王全璋北京の弁護士です。中国の法律制度には人権保障の面で大きな欠陥があると感じています。」"
ナレ「主に冤罪事件や宗教弾圧などを手掛けていた王全璋弁護士。その故郷山東省の農村で、過去に弁護を受け

たという男性を探し当てた。」
男性（翻訳・字幕）「この村はすごく貧しいんですよ。さあ入って、入って」
ナレ「斉崇誰さんは今年の 2 月、11 年間の懲役を終えて、出所した。妻と二人の子供がいたが、服役中に離婚。出所してから仕事のあてはなく、今は実家で一人、細々と農業をして暮らしている。」
ナレ「斉さんは、以前地元の新聞社の記者だった。当局ににらまれたきっかけは、2007 年、地元政府に陳情に来ていた市民たちが一斉に拘束されたのを批判する記事を書いたことだったという。」
斉崇誰さん（翻訳・吹替）「温家宝首相が私たちの町で市民と旧正月を過ごすことになったんです。すると、地元政府は陳情に来ていた人たちを環境浄化を理由に捕まえたんです。」
ナレ「その後、正当な理由もないまま、逮捕された斉さんの弁護を買って出たのが王全璋弁護士だった。」
斉さん（翻訳・吹替）「彼は、みんながあなたを支持しています。20 人ｎ弁護団であなたを弁護しますので安心してくださいと言いました。」
ナレ「弁護料を取らないどころか、貧しかった斉さんや家族のために金を工面してくれたという。」
斉さん（翻訳・吹替）「拘置所の看守から、『他のやつらは弁護士に金を渡すのに、どうしてお前は弁護士から金をもらうんだ？』と聞かれました。」
ナレ「王弁護士は、農民たちが自らの権利を守るには、法律の知識が必要だと、山東省の貧しい農村に出向いて、無償で法律を教えていたという。村で話を聞いていると、その授業を受けたことがあるという人がいた。」
"法律教室に参加した人（翻訳・字幕）「1，2 回行きました。」
記者（翻訳・字幕）「どうでしたか？」
参加者（翻訳・字幕）「とてもよかったよ。」
記者（翻訳・字幕）「役に立ちましたか」
参加者（翻訳・字幕）「我々農民にとってはとても役に立ちます」"
ナレ「この動画が撮影されたのは、拘束される数か月前、王弁護士は自らの身に迫る危険を察していたのかもしれない。」
王全璋弁護士（翻訳・字幕）「私は、できる限りのことをして、司法改革や制度の変化を推進し、本当に国民の人権が保障される社会を実現したいと思います。」
ナレ「王弁護士の妻、李文足さんはこの 3 年間、あらゆる窓口を訪ねて、夫の無実を訴えてきた。」
李文足さん（翻訳・吹替）「夫が拘束されて、９９９日になりますが、弁護士との面会は一度も許されず、全く連絡が取れていません。」
ナレ「今年 4 月には、拘束から 1000 日となるのを機に北京から夫が拘留されている天津まで、およそ 120 キロを仲間たちと歩いて訴えることにした。」
李文足さん（翻訳・吹替）「使える法律は全て使って訴えました。あとは粘り強く諦めない決意を見せるだけです。」
ナレ「彼女たちの動向は、中国国内では一切報じられない。しかし欧米や香港など、外国メディアの関心は高く、当局は神経をとがらせている。」
"文足さん（翻訳・字幕）「あなたに何の権利があるの？」
警察（翻訳・字幕）「止まれ、止まれ」
文足さん（翻訳・字幕）「歩くのは私の自由でしょう？」"
ナレ「歩き始めて 7 日目の朝、文足さん一行は宿泊していた宿から出発しようとしたところを、１０数人の私服警官に取り囲まれた。そして自宅に連れ戻され、軟禁状態となったのだ。」
"支援者（翻訳・字幕）「李文足頑張れ！私たちがついてるよ！」

文足さん（翻訳・字幕）「分かった！」"
ナレ「文足さんの自宅前では、駆け付けた彼女の支援者たちが、私服警官に行く手を阻まれていた。」
支援者（翻訳・字幕）「会いに行くのもダメなの？こんなに取り囲まれていたら、出てこられないじゃない」
私服警官（翻訳・字幕）「撮るな！撮るなっていうのがわからないのか！
ナレ「この日、支援者たちを妨害していたのは、警察だけではなかった。近所の住民たちが、文足さんの入り口がある建物の入り口を塞いで、出入りを阻止していたのだ。その様子を取材しようと近づいた私たちの車が住民たちに取り囲まれ、中にいたカメラマンが引きずりだされた。」
住民（翻訳・字幕）「日本人だ！」「日本人が中国で何やっているんだ！」「日本人は出ていけ」
ナレ「カメラやパソコンを奪おうとする住民たち。ただの野次馬、傍観者だと思っていた彼らの多くが、警察の側に立っていた。顔なじみの住民たちの言葉や振る舞いに、文足さんは何よりも傷ついたという。」
文足さん（翻訳・吹替）「この人たちは何の権利があって、私を苦しめているんだろう？そう考えると、絶望的な気持ちになりました。」
ナレ「政府に異を唱える者は、社会からとことん排除される。それが今の中国の現実だ。709 の大拘束から 1 年あまりが経った 2016 年 8 月、一部の弁護士や活動家の裁判が始まった。」
"人権派弁護士・周世峰氏（翻訳・字幕）「中国政府に対し、深く懺悔の気持ちを表します。」
人権活動家・匂洪国氏（翻訳・字幕）「私は西洋の民主思想にだまされていたと気付きました。」"
ナレ「罪名は国家の安全と社会の安定を脅かした国家政権転覆扇動罪。国営メディアでは、彼らが罪を認めて謝罪する様子が繰り返し流された。当局側は市民やメディアの代表に傍聴させるなどして、公正な裁判をアピールしたが、家族や支援者は裁判所に近づくことすら、許されなかった。」
被告の妻（翻訳・字幕）「きょう裁判をやるかどうか知りたいだけなのに、なぜこんなことをされなければならないの？」
ナレ「この 3 年間、李文足さんとともに活動してきた王ショウ嶺さん。夫の李和平氏は数多くの冤罪事件などを手掛けてきた著名な人権派弁護士だ。その王さんの携帯に 1 枚の写真が届いたのは、去年 5 月のことだった。」
王ショウ嶺さん（翻訳・吹替）「この人誰？知らない人がいると思いました。友人の知り合いかと。しばらくしてやっと自分の夫だと分かったんです。」
ナレ「およそ 2 年ぶりにみる夫の姿だった。最後まで自分の罪を認めることを拒んだという李和平弁護士の裁判は、秘密裁判で行われ、国家政権転覆扇動罪で懲役 3 年、執行猶予 4 年の判決が下された。」
ナレ「およそ 2 年の拘置生活の間、肉体的、精神的な拷問を受けたという李和平氏は体重が 15 キロ近く減り、髪は白くなっていた。」
王ショウ嶺さん（翻訳・吹替）「夫が私を呼んで歩み寄ってきました。何を言ったか覚えてませんが、抱きしめた夫はとても細くてか弱かったです。」
李和平氏（翻訳・吹替）「妻や子供と一緒にいられるのは、いいもんですね。ハハハッ」
王ショウ嶺さん（翻訳・吹替）「近くには私服警官が 3 人、えっ 6 人？私たちを尾行しています。」
ナレ「釈放されてもなお、監視状態にある李和平氏。海外メディアとの接触は禁じられ、弁護士の資格もはく奪された。それでも、いつの日かまた、法律の仕事に関わりたいと、話しているという。」
ナレ「なぜ自分の夫だけが帰ってこないのか。王ショウ嶺さんとともに活動してきた李文足さんは、複雑な思いを抱えていた。」
李文足さん（翻訳・吹替）「ひどい拷問を受けて、体に傷か何かあって、弁護士に会わせられないのかもしれません。あるいは夫は、ずっと頑張っていて、妥協も譲歩もしていないのかもしれません。」

ナレ「息子の泉泉くんは、父親が拘束されたとき、まだ 2 歳だった。」
"文足さん（翻訳・字幕）「パパの顔を覚えてる？」
泉泉くん（翻訳・字幕）「覚えてない」
文足さん（翻訳・字幕）「パパのことで何か覚えていることはある？」
泉泉くん(翻訳･字幕)「パパがおもちゃを買ってくれたの覚えてるよ。」「パパ早く帰ってきて！会いたいよパパ！」
文足さん（翻訳・字幕）「どれくらい？」
泉泉くん（翻訳・字幕）「心から！」"
"ナレ「実は、李和平氏が帰ってきたとき、文足さんと泉泉くんはその場にいた。映像には泉泉くんの声が残されている。」
泉泉くん（翻訳・字幕）「僕のパパは？」"
ナレ「文足さんが一番つらかったのは、李和平氏の帰りを喜ぶ、お祝いムードの中で、幼い息子が自分の気持ちを気遣ってくれたことだったという。」
文足さん（翻訳・吹替）「大勢の人が和平さんに会いに来たんですが、息子は『ママ僕と一緒に奥の部屋で休もうよ』と、私を連れ出そうとしたんです。」
ナレ「中国政府は、人権問題を巡って、たびたび国際社会の批判にさらされてきた。天安門事件の際、学生を支持したことなどで知られる作家で人権活動家の劉暁波氏。2008 年に中国の民主化を求める零八憲章を発表し、国家政権転覆扇動罪で、懲役 11 年の判決を受けた。2010 年、獄中でノーベル平和賞を受賞。中国当局は、代理で授賞式に出席しようとした妻の劉霞さんを自宅軟禁にした。」
"見張り（翻訳・字幕）「お前は誰だ？」
ナレ「これは 2012 年に、支援者が見張りを強行突破して、自宅軟禁状態が続いていた劉霞さんを訪ねたときの映像だ。当局に聞かれることを恐れてか、劉霞さんは耳打ちでなにかを訴えている。」"
ナレ「去年、劉暁波氏は末期の肝臓がんで仮釈放され、わずか半月あまりで亡くなった。夫の死後も外部との連絡を絶たれたままの劉霞さんは、深刻なうつ状態にあると、言われていた。」
ナレ「今年 5 月、中国を訪問したドイツのメルケル首相は、李克強首相に対し、劉霞さんを出国させるよう、強く求めたという。すると 7 月、劉暁波氏の 1 周忌を目前に、劉霞さんのドイツへの出国が認められた。中国政府が人権問題で譲歩するのは、極めて異例のことだった。」
ナレ「9 月劉霞さんは人権関連のイベントに出席するため、ニューヨークを訪れた。歓迎の拍手に笑顔を見せた劉霞さん。中国を出国してから初めての公の場とあって、発言が注目されたが、」
劉霞さん（翻訳・字幕）「劉暁波については、まだ何を言って良いか分かりません。長い間、劉暁波と私と一緒に努力してくれた友人の皆様に感謝します。」
ナレ「発言はわずか 20 秒足らず、さらに支援者が劉霞さんから聞いたとして、劉暁波氏の最後の瞬間について話し始めると、表情を曇らせた。」
"支援者（翻訳・字幕）「彼女から聞いたのは、劉暁波がこの世を去る時、両足が何度も上下に揺れ動いて、まるで天国に上っていくようだったと・・」
劉霞さん（翻訳・字幕）「そんなことは言ってません」"
ナレ「これ以上、劉霞さんが語ることは無かった。支援者によると、中国に残る弟に、危害が及ぶのを恐れて、何も話せないのだという。体は中国から離れることができても、心はまだ自由になっていないのだ。」
ナレ「2015 年 9 月、709 の大拘束の 2 か月後に、アメリカを訪れた習近平国家主席に対し、オバマ大統領はこう苦言を呈した。」

オバマ大統領（翻訳・字幕）「ジャーナリストや弁護士、NGO などの自由な活動が阻害されていることは問題があり、中国とその人々の可能性を狭めているという強い懸念を率直に示しました。」
ナレ「アメリカはこれまで事あるごとに、中国の人権問題に物申す存在だった。ところがトランプ大統領は、去年訪中した際、人権問題にはひと言も触れなかった。」
ナレ「中国が経済発展し、国の発言力が強まれば、強まるほど、政府との関係を優先して、発言を控える国が増えている。そんな中で、ドイツのメルケル首相は、5 月に訪中した際、李文足さんとも、面会している。」
文足さん（翻訳・吹替）「彼女は私と子供の生活を気遣ってくれて、夫の件にも注目し続けると言ってくれました。」
ナレ「中国国内で孤立する彼女たちにとって、国際社会の関心と圧力は、唯一の支えとなっているのだ。」
【VTR 2】
ナレ「人権派弁護士の妻、李文足さんは、この夏北京市内から、郊外に引っ越した。警察の監視や、周囲の偏見の目から、少しでも息子を守りたいという思いからだ。8 月、夫、王全璋の元同僚だという弁護士から突然拘置所から面会したという連絡を受けた。この 3 年間で初めて聞く夫の消息だった。」
李文足さん（翻訳・吹替）「彼は、『王全璋はまだ大丈夫だ』といいました。でも面会の時、監視の目をとても怖がっていたそうです。夫は声を出さずに口の動きだけで話したので、うまく意思疎通ができなかったといっていました。」
ナレ「しかしそれ以上、肝心なことは何も話してくれなかったという。」
文足さん（翻訳・吹替）「拷問を受けてる？体は？老けた？何を聞いてもまあ大丈夫としか言わないんです。」
ナレ「政府の意向を受けていたというこの弁護士は体調を理由にすぐに辞任してしまった。結局夫がまだ生きているらしいということ以外は何も分からなかった。」
文足さん（翻訳・吹替）「これが最後にあった時です。だからもう、3 年前になります。」
ナレ「2015 年 6 月、寝台列車の中で撮った写真。各地を飛び回り、家族の時間が取れなかった夫の出張に息子と無理やりついていったのだという。出張先で別れ、夫はそのまま拘束されてしまった。」
文足さん（翻訳・吹替）「この写真を見るたび、辛くなります。こうなるとわかっていたら、分かれるとき抱きしめていたのに。」
"ナレ「あの日から 3 年。息子の泉泉君は、5 歳になった。」
泉泉くん（翻訳・字幕）「すごくパパに会いたい。僕のママはパパと最後に会った時の写真を見ると、すごく悲しくなっちゃうんだ。」"
手紙（翻訳・吹替）「全璋へ。あなたにいい知らせがあります。息子の泉泉はとても立派な男の子になりました。あなたにそっくりです。」
ナレ「拘束から 3 年を迎えた 7 月 9 日。李文足さんは夫に宛てた手紙を書いた。」
手紙（翻訳・吹替）「泉泉は私の幸せの源です。でも最近になってよく、『パパはもう死んじゃったの？』と聞いてきます。私は『パパはモンスターを退治しに行ったので、終わったら戻ってくるよ』と答えます。」
ナレ「夫に届くことのない手紙はこんな言葉で締めくくられている。」
手紙（翻訳・吹替）「全璋。あなたのためなら私は何も怖くはありません。だからあなたも私のために強く生きてください。」
文足さん（翻訳・吹替）「本当のことを言うと、この 3 年間、とても苦しかったです。よくない感情がわいたり、悲しくなったり、恨んだり、でも、いろいろあるけど、全璋がまだ戻ってきてないから、私はあきらめません。」
　VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。
膳場「えー前北京支局長井上波記者です。あの一時期は自宅軟禁までされてた李文足さんですけども、今は身の

安全ていうのは確保されてるんですか？」
井上記者「まあ当然彼女たちは、外国メディアの取材を受けるな。ということは当局から言われています。まあそれでも監視の目をかいくぐって、まあ尾行を巻いてですね、我々に会いに来てくれるんですね。でどうしてそこまで危険を冒して我々の取材を受けるのかというと、それしか方法がないからなんですね。あの一中国国内のメディアというのは、一切伝えませんし、まあ例えば SNS にまあ自分たちの活動のことなんかを乗せても、それが消されてしまったりと、ほんとに自分たちのことを伝える手段というものがないんです。だから、我々の取材を受けるんですけども、それでも取材中には、尾行されてるんじゃないかとか、あと隣の席に座ってる人達が警察なんじゃないかとか、そうやって彼女たちがおびえるような場面もよくありました。」
日下部「気になったのは、近隣住民の李さんに対する態度ですよね。なんかこう、住民同士のね監視が厳しかったかつての中国を見ている気がしました。」
井上記者「そうですね、あの、警察ならわかりますけど、周りの住民たちが彼女たちに対して、あそこまで冷ややかだというのが私も想像していなかったので、あの時は相当ショックではありました。まあ無関心とか、触らぬ神に祟りなしとか、そういうことならわかるんですけども、それを通り越して、国家に異を唱える人を排除するような空気が中国社会の一部に広がっているように、感じました。」
井上記者「ある人が、まるで文革、文化大革命の時代のようだといっていたのが、印象的でした。」
金平「これね見てて、中国だけでの、他人事じゃないような恐ろしさを感じたんですが、この国際社会の監視の目というのは、中国政府というのは、気にしているんでしょうか？」
井上「はい、彼女たちが活動する現場にはよく、その EU とかドイツ、とかそういうヨーロッパの大使館員が来ています。彼らは口を出すわけではなくて、すこし距離をとってみていて、でまあ中国当局に対して我々はみているぞと、いうメッセージを出しているんですね。で劉霞さんが出国できたことからも、わかる通り、中国政府というのは、国際社会の目を気にしています。日本政府はなかなか表立って行動することにはまだ消極的なんですが、我々が彼女たちのことを知って、外から声を上げていくことはとても重要だと思います。」
膳場「井上記者の取材でした」
　この特集に当てられた時間は 1610 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
　特になし

検証者所感
・オープニング
　金平キャスターが「国会が空洞化しているということは国民が軽んじられているということです。国民が軽視され、ないがしろにされている国家は民主主義国家ではありません。入管法改正審議からこのことを今日の特集で考えてみたいと思います。」とコメントしていたが、そこまでコメントするのであれば、国会内での入管難民法に賛成の意見についても取り上げてほしかった。特に、他の野党が入管難民法に反対する中で入管難民法に賛成した野党である日本維新の会の議員の発言が特集で全く取り上げられなかったというのは非常に残念だった。

・【特集】外国人労働者の受け入れ拡大
　金平キャスターは「今国会というのはこの入管法ばかりでは無くですね、水道民営化とか、漁業法とか、国民の在り方をこう、根本的に変えるような重要法案があったんですけども」とコメントしていたが、外国人労働者

の受け入れや水道の民営化あるいは漁業法の改正というのはそもそも国民のあり方を根本的に変えるようなものなのだろうか。確かに国民の中の一部はあり方を根本的に変わる人もでてくるかもしれないだろう、例えば漁業法が変われば漁業従事者の生活も大きく変わるだろうが、そうでない国民も生活や在り方が根本的に変わると言われても今ひとつピンとこない。

国会の議論に焦点を当てる時、「国民生活を大きく変える」という言葉はよく使われるが、そうした言葉を使う際には、どういうふうに変えるのか、あるいはなぜそれが「国民」という極めて広い範囲の集合のあり方を変えるのかという点まで言わなければ、ライフスタイルが多様化している現代においては、どうにもピンとこない表現なのではなかろうか。

今回の外国人労働者受け入れについても野党のみならず自民党内やその支持者の間でも一定の反対論があったのに対し都市型の政党である日本維新の会が賛成の立場を取り続けてきたというのは、それこそ「国民」のという集合が現時点でも既に在り方が根本的に異なるような複数の部分集合から構成されているということを示唆しているのではないだろうか。